

2012年度インカレ新人戦

大会報告

2013年3月1日～3日の3日間、浜名湖でインカレ新人戦が開催されました。今回はエントリー数が153名（男子109、女子44）で、ここ数年の中では最大規模の新人戦となりました。今大会は風に恵まれ全風域でレースが実施されたため、全選手が少なくとも1レースは得意風域で戦うことができましたと思います。昨年は微風ばかり、その前の年は強風のみで、一部の風域でのみレースが行われることがここ数年多かったです。今年はそのような偏りもなく、全選手にフェアな環境でレースができたのではないのでしょうか。

大会1日目。朝から無微風でレース予定時刻が近づいても一向に風の上がる気配はなく、1時間ほどドウェィティングとなりました。10時過ぎにようやく北東～東で2～3mの風が吹き始めたため、レディースクラスがスタートになりました。1レース目は、上智の河村が男子顔負けの力強いパンピングで1上からフィニッシュまで1位をキープし続けました。2位は東京海洋の藤原。藤原は、終始河村を追いかける展開で、1上からフィニッシュまで2位をキープし続けました。3位は1上で13位と大きく出遅れたものの、驚異的な追い上げで順位を上げた同志社の東でした。続けて行われた第2レースは、第1レース6位だった青山学院の倉田が1位でフィニッシュ。続いて河村（上智）。3位には今大会の優勝候補、山辺（関東学院）が入りました。女子はここでいったん終了し、引き続いて男子のレースが行われました。風は女子の時よりもさらに落ち、風速は1～2m。そんな中行われた第1レースは、微風域で圧倒的な艇速を持つ琵琶湖勢が爆発します。滋賀県立大学の森、垣谷が終始レースをリードし続け、1位、2位でフィニッシュ。そして、関西には負けられないとばかりに凄まじいパンピングで追い上げをはかった明治の今林と塩田が3位、4位でフィニッシュしました。第2レースは、またしても森が圧倒的な走りで1位。続いて、1レース目で29位を走ってしまった同志社の小松。3位は優勝候補の前田（関西学院）でした。風が無かったものの、男子も無事2レースを消化して大会1日目は終わりました。

大会2日目。朝から風速15mを超える風が吹き、選手の多くはセッティングもままならないような状態でした。午後には若干風が落ちる予報でしたが、結局風が落ちることはなく、2日目はノーレースとなりました。

大会3日目。朝は前日の風が残り、10m前後の風が吹いていました。レース数を増やすため、第3レースは男女同時スタートとなりました。メンズクラスでは、1日目で全ピンだった滋賀県立の森が1位フィニッシュ。2位は前田（関西学院）。3位に早稲田の田中が入りました。このレースは時折かなり強いブローが吹き、メンズクラスの選手でさえハエ叩きにあうようなコンディションでした。そのため、レディースクラスのフィニッシュはかなり遅くなることが予想されていましたが、関東学院の山辺が男子顔負けのプレーニングで他の選手を圧倒し、レディースクラスでは2位と3分以上の差をつけて断トツフィニッ

シュしました。総合でも 20 番代でフィニッシュし、ビーチの応援を沸かせました。このレース以降は男女分かれてレースが行われました。男子の第 4 レースは 1 上、1 下を立命館の千葉が 1 位で回航しプレーニングで 2 上に向かったため、このレースのトップは千葉か、と思われましたが、前田（関西学院）が安定した走りで見事に差を縮め、最終的に 1 位でフィニッシュ。立命館の千葉は 2 位に落ちました。3 位には青山学院の川端となりました。続けて女子の第 4 レースが行われました。上マークを 1 位で回航した東京海洋の藤原と前レースで断トツだった山辺（関東学院）、暫定 1 位の河村（上智）がトップ争いを繰り広げ、河村が競り勝って 1 位、2 位が山辺、3 位が藤原となりました。そして迎えた最終レース。4 位以下の順位をとると優勝を逃す河村（上智）と、1 位なら優勝の可能性がある山辺の一騎打ちとなりました。優勝への強い思いから山辺がリードし続け、トップフィニッシュ。「続いて帰ってくるのはだれなのか」、ビーチの応援が固唾を飲んで見守る中、下マークを回航してプレーニングしてきた選手は河村（上智）でした。この瞬間、河村の優勝が決まりました。それ以降の順位は、3 位が東（同志社）、4 位が鎗分（東京海洋）、5 位が鈴木（横浜市立）となりました。続いて男子の第 5 レースが行われました。このレースでは、第 4 レースでカットレースを作ってしまったため挽回を狙う森（滋賀県立）、第 4 レースまで安定してポイントをとめている前田（関西学院）、今林（明治）らが上位争いを繰り広げる展開になると予想されましたが、森が 30 番代を叩き、優勝争いから離脱しました。一方の前田と今林は安定した走りを見せ、それぞれ 1 位、4 位となりました。このレースでは途中から風が強まり、ミスが目立つ選手も散見されましたが、上位層は安定した走りで見ごたえのある戦いを繰り広げました。また、2 位は同志社の鈴木、3 位は早稲田の田中、5 位は立命館の千葉という結果となりました。そして行われた最終レース。4、5 レースで沈んだ森（滋賀県立）が意地を見せ、レース序盤で 1 位だった今林（明治）抜きさり、トップでフィニッシュ。そして今林が 2 位。3 位には立命館の千葉、4 位は前田、5 位は同志社の小松という結果となり、レースは終了しました。

メンズは全 6 レースを行い、終始安定していた関西学院大学の前田が優勝、9 ポイント差で明治の今林が 2 位、3 位は同志社の小松。4～8 位はそれぞれ森（滋賀県立）、堀川（関東学院）、川端（青山学院）、千葉（立命館）、鈴木（同志社）という結果になりました。メンズクラスの入賞者のリザルトを総合すると、前田、今林、小松、堀川、千葉らは安定した順位でポイントをとっており、全風域でレースを行った今回の大会ではその安定感が好成績につながったようでした。

レディースクラスは全 5 レースを行いました。河村（上智）、山辺（関東学院）の 2 人がし烈な優勝争いを繰り広げる展開が多く、見応えがありました。結果は河村が優勝、山辺が 1 ポイント差で準優勝、3 位が藤原（東京海洋）、4 位が筒井（法政）、5 位が東（同志社）となりました。レディースクラスのレースを総合すると、今回は強風域で戦えるかどうか上位入賞できるかのキーになっていたようでした。10 位以降の選手は全員、リザルトに F が 2 つ以上ついており、これが勝敗を分けました。

春にウインドサーフィンを始めてからちょうど1年経った3月に開催されるインカレ新人戦は、1年生が参加する大会の中で最大規模のものです。大会後の閉会式では晴れ晴れとした表情をしている選手、悔しそうにしている選手などが多くおり、今回の大会にかけて必死に練習してきた選手が多かったことがうかがえました。しかし、今大会は1年生として臨む最後の大会です。次からは上級生として臨む大会しかありません。すべての選手にとって今大会が次の大会に向けてのステップになればと思います。

最後に、今大会を開催するにあたり多大なるご協力をいただいた NUTS 様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

インカレ新人戦大会実行委員長
大阪大学 佐藤 駿





